

親と家族を支える

～「育てにくさ」を感じる子育てへの支援～

子どもの育ち・発達には個人差がありますが「落ち着きがなく、衝動的な行動をとってしまう」「人間関係を築くのが苦手」「すぐに癇癢を起こす」など、育てにくさを感じる子育ては、親にとって大きな心理的負担を伴います。周囲の理解と適切な援助がなければ、つらいだけの子育てになり、親・家族は孤立へと追い込まれていくばかりです。

子どもの思いを共有しながら、親の気持ちに寄り添い、支えていくために私たちにできることは…

「子どもの精神科臨床では、子どもを応援するだけではなく、親のこれまでの行為を労い、その思いを支え、敬意を表することが大切である。外来で出会う子どもたちの親は、戸惑い、哀しみ、悩み、それでも前を向いて、僕と向き合ってくれる。これから幾多の困難があろうとも、その先に、必ず笑顔はある。」

著書『僕の児童精神科外来の覚書』より



たなか やすお
講師 田中 康雄さん

(精神科医、北海道大学名誉教授、
こころとそだちのクリニックむすびめ院長)

【日時】 **2022年11月3日(木・祝)**
10時～12時

【申込方法】 **申込×切 11月1日**

申込および参加にはインターネット環境が必要です。
下記のいずれかの方法でお申込みください。

【メール】

oki2022kodomo@gmail.com

- 1.名前 2.希望講演会名 3.電話番号
4.お住まいの市町村 5.職業(所属)をご記入ください。



【Google フォーム】

QRコードよりお申し込みください→



<専門> 児童思春期精神医学

<略歴> 国立精神・神経センター精神保健研究所 児童・思春期精神保健部児童期精神保健研究室長、北海道大学大学院教育学研究院教授を経て2012年「こころとそだちのクリニックむすびめ」院長。現在に至る。

<著書>『僕の児童精神科外来の覚書 子どもと親とともに考え、悩み、実践していること』(日本評論社 2022)『「発達障害」だけで子どもを見ないで その子の「不可解」を理解する』(SB 新書 2019)『ADHD とともに生きる人たちに 医療からみた「生きづらさ」と支援』(金子書房 2019)他多数

問合せ先:おきなわCAPセンター(平日:9時～17時)

電話: 070-6591-7159